



政策3 産業・文化(にぎやか) ~地域の活力あふれ、にぎわいのあるまちづくり~

政策の3つ目の柱は、鹿沼市の強みを生かした一次産業、二次産業、三次産業のバランスが取れた産業の発展のため、主要産業である木工業や農林業を始めとした地域産業の振興、働きやすい環境整備などの施策分野に関するものです。

本政策では、労働生産性向上などをはじめとした商工業支援、“稼げる農業・林業”に向けた農林業支援、自然や文化といった豊かな地域資源を積極的に活用したまちの魅力の創出などに努め、にぎわいのあるまちの実現を目指します。

政策3 にぎやか ~地域の活力あふれ、にぎわいのあるまちづくり~

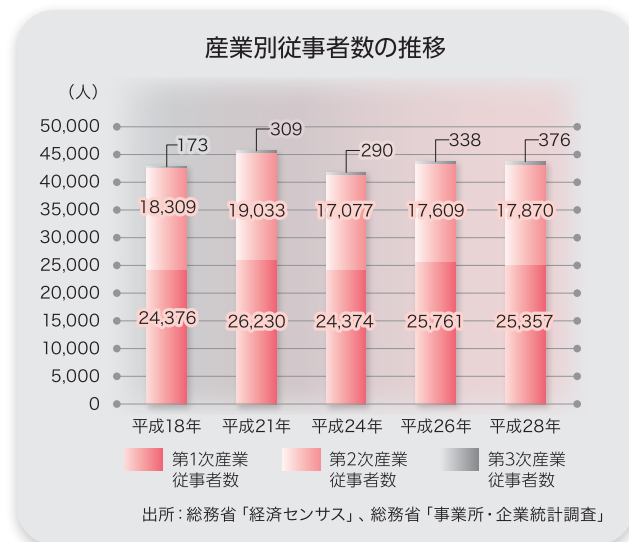
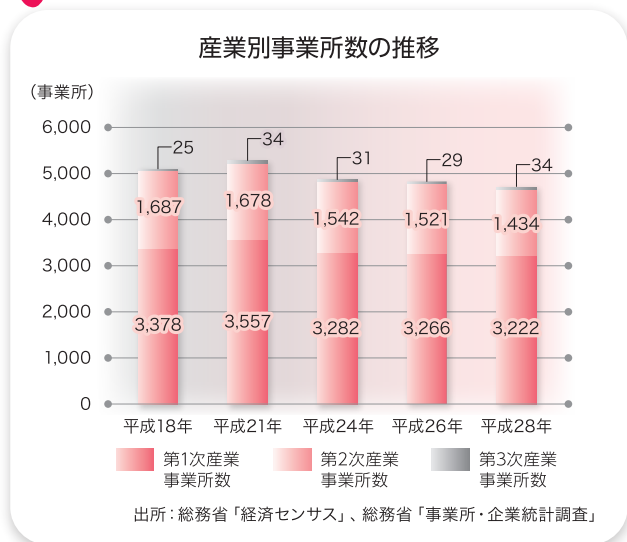
- 13 雇用の創出と働く環境づくり
- 14 地域と連携した商工業の振興
- 15 資源を活かした「選ばれるまち」の創造
- 16 戦略的農業の推進
- 17 持続可能な森林経営と木材の循環利用



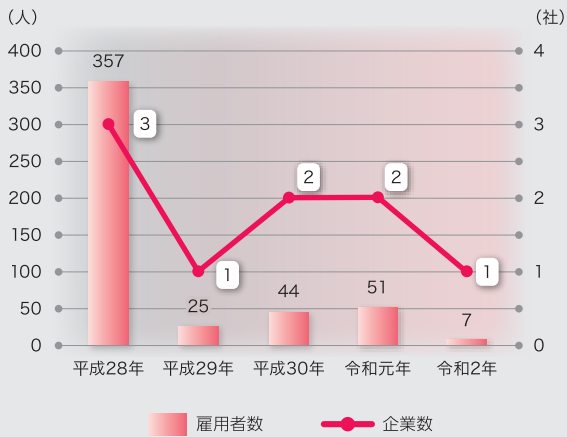
該当するSDGs番号



政策の概況

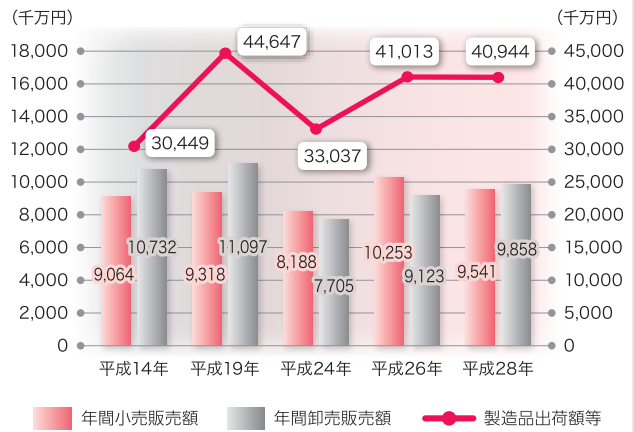


企業誘致実績（企業数・雇用者数）の推移



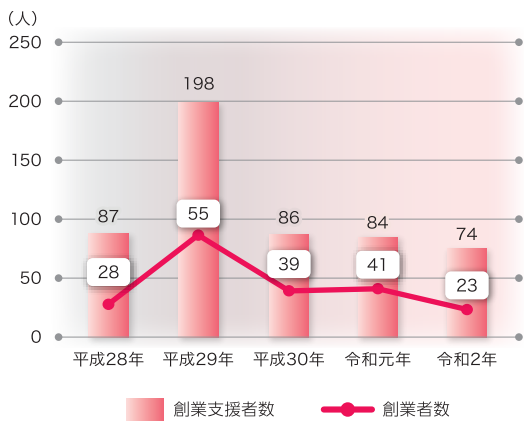
出所：鹿沼市調べ

製造品出荷額等・年間小売／卸売販売額



出所：経産省「商業統計調査」、総務省「経済センサス」、経産省「工業統計調査」

創業者数・創業支援者数の推移



出所：鹿沼市調べ

主な観光施設と観光客入込数の推移

施設名	年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
横根高原		45,308	48,518	52,874	55,155
屋台のまち中央公園 (掬翠園)		16,909	21,093	17,199	10,141
屋台のまち中央公園 (屋台展示館)		7,996	13,164	5,955	3,754
前日光あわの山荘		2,295	1,099	1,840	250
城山公園		7,210	11,465	6,276	750
千手山公園		86,966	84,417	82,042	46,859
出会いの森 オートキャンプ場		32,023	33,637	32,080	19,946
前日光つつじの湯交流館		78,900	73,100	67,302	30,087
屋台のまち中央公園 (物産館)		16,677	23,826	11,999	8,482
まちの駅「新・鹿沼宿」		694,602	694,763	478,154	353,006
計		988,886	1,005,082	753,881	528,430

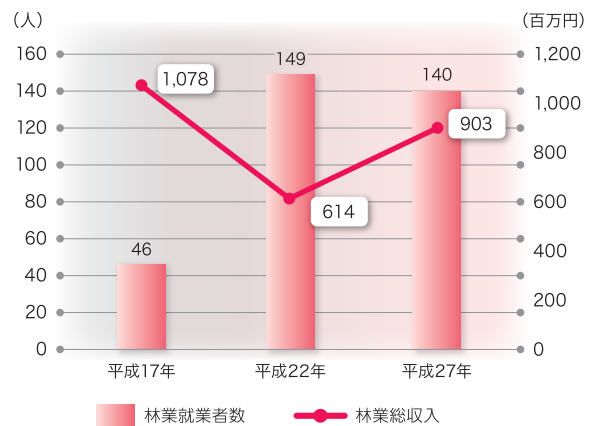
出所：鹿沼市調べ

販売農家戸数の推移、農業産出額の推移



出所：農林水産省「農林業センサス」、「生産農業所得統計」、「市町村別農業産出額 推計」
※農業産出額について平成22年は非公表、令和2年は未公表となっている。

林業従事者数の推移、林業総収入の推移



出所：総務省「国勢調査」、農林水産省「農林業センサス」



施策の将来像

市内での雇用機会が拡大するとともに、ライフスタイルなどに応じて安心して働き続けられる環境が整っています。



目標指標

No.	指標名	単位	直近の実績値	計画最終年度の目標値	目指す方向性
1	就業意欲のある人が就業することができる割合	%	76.8 (R3)	80	↗
2	仕事にやりがいを感じている市民の割合	%	66 (R3)	70	↗
3	有効求人倍率	倍	1.02 (R2)	1.30	→(1.30)
4	企業の誘致数(累計)	件	1 (R2)	10	↗
5	誘致した企業の雇用者数(累計)	人	7 (R2)	710	↗



現状と課題

- 本市では、昭和36年に鹿沼木工団地の整備を開始して以来、5か所の工業団地を整備し、84社の企業が操業しています。また新たに、鹿沼インター産業団地を整備中です。
- 平成27年度から令和2年度までの6年間で、計10社の企業を誘致し、800人以上の雇用の場を創出しました。
- 東京圏に近く、高速道路のインターチェンジを有する地理的優位性を活かしながら、安定的に雇用機会を創出し、人口減少の抑制や財政基盤の強化を図るため、継続的に企業誘致に取り組む必要があります。
- また、全国的に企業と求職者のミスマッチ、ワーク・ライフ・バランスの意識の醸成等が課題となっており、本市においても、市内企業の労働力確保や雇用機会の創出、誰もが働きやすい職場環境の実現に向けて、関係機関と連携しながら企業に働きかけていく必要があります。



関連する個別計画

No.	計画名	計画期間
1	(仮称)鹿沼東工業団地整備基本計画	2016(平成28)年～2024(令和6)年



取組方針(公助)

① 産業用地の早期確保及び企業誘致の継続実施により、雇用の創出を図ります。

- 県との連携により鹿沼インター産業団地の早期整備を目指すとともに、企業の立地ニーズに対応するため、適地の創出を検討します。
- 補助金等の見直しや県との連携を図りながら、鹿沼インター産業団地の早期完売を目指します。
- 多様な企業の誘致に取り組み、幅広い人材が活躍できる環境を整えます。

② 企業の優秀な人材の確保・定着、従業員の意欲や生産性の向上に官民共同で取り組みます。

- ハローワーク等の関係機関と連携し、企業と求職者のマッチングを支援します。
- 職業能力開発を推進し、求職者の就業機会の拡充や、職業人としての資質向上を図ります。
- 中小企業等の優良従業員を顕彰し、優秀な人材の育成を支援します。

③ 働きやすい労働環境づくりを進めます。

- 仕事と子育ての両立など新しい働き方の普及啓発を図り、働き方改革の実現に取り組む企業を応援します。
- (公財)鹿沼市勤労者福祉共済会への支援等により、福利厚生充実による労働環境の向上を推進します。
- 関係機関と連携し、労働基準法や育児・介護休業法などに基づく制度の普及啓発を図ります。

市民がみんなで協力してできること(自助・共助)

自分自身や家族と協力してできること(自助)

- 自分のやりたいことを明確にします。
- 家族と自分の将来について話します。
- 市内企業の仕事内容や社会貢献活動について関心を持ちます。

近所の方々、自治会、企業、民間の団体などと協力してできること(共助)

- 地域の将来について話します。
- 外国人との共生について話します。
- 地域内企業の魅力を発信します。
- 働く人が安心して子育てできる職場環境づくりに努めます。



施策の将来像

市内企業の持続的成長と活発な新規創業が進み、地域経済が活性化しています。



目標指標

No.	指標名	単位	直近の実績値	計画最終年度の目標値	目指す方向性
1	商業従業者数	人	6,661 (H28)	6,826	↗
2	創業者数(累計)	人	23 (R2)	105	↗
3	工業従業者数	人	14,173 (R2)	14,887	↗
4	製造品出荷額等	万円	44,502,647 (R2)	47,789,786	↗



現状と課題

- 商工業における経営者の高齢化が深刻化しており、後継者不足により事業継続が困難となる事業者が増加しています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、サプライチェーンの棄損リスクが顕在化するとともに、新しい生活様式への対応が求められています。
- データとデジタル技術を活用したDX(デジタル・トランスフォーメーション)による労働生産性の向上やイノベーション創出が求められていましたが、コロナ禍においてより一層重要視されています。
- デジタル化や新技術・新商品の開発、販路拡大等を支援することで、経営基盤の強化を促進するとともにやる気のある中小企業の成長や若手創業者の活躍を後押ししながら、商工業の振興を図っていく必要があります。



関連する個別計画

No.	計画名	計画期間
1	—	—



取組方針(公助)

① 地域企業の生産性向上、経営基盤の強化を推進します。

- デジタル化や新技術・新商品開発、6次産業化及び販路開拓等を継続的に支援します。
- 経営者の高齢化により事業継続を断念することのないよう、事業承継を視野に入れた経営強化を支援し、後継者不足の解消を図ります。
- 伝統的産業や技術の継承に関する支援を行います。
- やる気のある企業や地域の中核となる企業の成長のため、個社ごとの課題に応じたきめ細かい支援を実施します。 **New!**

② 地域と連携した商業サービス業の振興に取り組みます。

- チャレンジする若手創業者を支援するため、既存チャレンジショップの機能を見直し、空き店舗出店の際の支援制度を拡充します。
- 個店、商店街などに加え、新たな商業形態を支援するなど、地域や商業形態のバランスの取れた商業環境づくりを推進します。

③ 市内事業者の経営安定化を図ります。

- 中小企業の経営合理化や経営基盤強化のため、制度融資の充実等を図ります。
- 災害等により悪化した経営の改善・安定を図るため、資金繰りを支援します。

市民がみんなで協力してできること(自助・共助)

自分自身や家族と協力してできること(自助)

- 地元産の製品を使用します。
- 買い物は、地元商店でします。

近所の方々、自治会、企業、民間の団体などと協力してできること(共助)

- イベントの開催など、自治会が協力して地元商店会等の活性化を図ります。
- 地域産品の販路拡大や、地元商品のブランド化、6次化商品の開発に取り組めます。



施策の将来像

自然環境と人々の営みが彩る日常に市民が誇りや愛着をもち、その発信によって、来訪者に選ばれるまちになっています。



目標指標

No.	指標名	単位	直近の実績値	計画最終年度の目標値	目指す方向性
1	観光客入込客数	千人	1,893 (R2)	2,132	↗
2	来訪者満足度	%	—	82.5	↗
3	観光協会ウェブサイトへのアクセス数	回	574,692 (R2)	733,468	↗

※観光客入込客数については、国内外の人の動きを表したものであり、特に新型コロナウイルスによる影響が大きく、現時点では不透明な部分も多い。(2年間(H30～R1)平均 3,342千人)



現状と課題

- 全国的に一過性のイベントによる誘客から、地域資源を活用した通年型観光へとトレンドが変化しています。
- 本市の標高差1,400mの変化に富んだ自然環境と、地理的・歴史的特性を背景に培われた文化は、通年で来訪者を獲得できる魅力度の高い資源です。
- 山岳や清流群などの自然環境と農村文化や日常的な営みが作り出す多様な魅力を、公式ウェブサイトやSNS、Youtube等、来訪者に適した媒体で市内外に発信し、市民の誇りと愛着を醸成するとともに交流人口の拡大を図り、関係人口へと発展させる必要があります。
- 前日光県立自然公園や観光施設には多くの来訪者があり、満足度向上のため関連する観光施設の積極的な修繕に取り組む必要があります。
- ユネスコ無形文化遺産である「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」や、全国最大規模のさつきの祭典「鹿沼さつき祭り」は、本市のイメージアップや認知度の向上に寄与しています。



関連する個別計画

No.	計画名	計画期間
1	観光振興計画	2010(平成22)年～
2	観光ネットワーク計画	2010(平成22)年～
3	利根川水系南摩川南摩ダムに係る水源地域整備計画	2004(平成16)年～2024(令和6)年



取組方針(公助)

① 観光資源の再評価・発掘・磨き上げにより、ストーリー性のある情報を発信します。

- 既存の観光資源はもとより、普段からある資源を掘り起こし、魅力あるストーリーとして再構築します。
- 観光資源の磨き上げにより、市民の誇りと愛着を醸成します。
- 観光資源を活かす人材を育成するとともに、観光協会の活動を支援し、官民連携による観光誘客を展開します。
- テーマに基いた自治体間の連携を加速化し、広域的な誘客を図ります。
- 地域の伝統文化の継承や特色ある事業を支援し、知名度やイメージの向上に効果的に活用します。
- 季節を感じる旬な情報をはじめ、鹿沼を選びたいくなる情報をSNS等、来訪者に適した媒体で発信します。
- 花木センターの道の駅化を進め、さらなる魅力向上を図ります。 **New!**

② 前日光県立自然公園を中心とした自然環境や観光施設の適切な管理・運営を行います。

- 観光施設を安全かつ衛生的に維持管理します。
- 前日光県立自然公園を含む本市山岳資源を適切に管理・運営します。

③ 地域資源のネットワークを強化し、市民協働で活用します。

- 地域資源のネットワークの再構築と活用を推進します。
- 市民協働によるまるごと博物館事業を展開します。

④ 西北部地域の観光交流拠点となる水源地域振興拠点施設を整備します。

- 南摩ダム事業による影響を緩和し、地域振興を図るために、温泉施設、飲食施設、キャンプ場等を備えた拠点施設を整備します。
- 施設運営には民間活力を導入し、利用者満足度の向上と持続的経営の実現を図ります。
- 拠点施設から西北部地域への回遊を促すため、広域的なPRの推進と潜在的な観光資源のさらなる掘り起こしに取り組みます。



市民がみんなで協力してできること(自助・共助)

自分自身や家族と協力してできること(自助)

- 市内を自分で歩き、自分の目で見て、自分の尺度で評価し、自分の言葉で発信します。
- 自分の住む地域の特性や魅力を学習し、地域の資源として守っていきます。

近所の方々、自治会、企業、民間の団体などと協力してできること(共助)

- 地域ぐるみで地域の資源の特性や魅力を学習・周知し、地域の資源として守っていきます。
- 環境美化に取り組み、来訪者のおもてなしをします。
- 観光事業者等との協働により、交流人口の増加を図ります。
- 大学等教育機関や研究団体と連携し、地域資源の発見・再評価を行うことで、更なる魅力の向上と後世への継承、各施設の展示内容の魅力向上を図ります。



施策の将来像

農業の担い手が確保され、多彩で高収益な農業が展開されています。



目標指標

No.	指標名	単位	直近の実績値	計画最終年度の目標値	目指す方向性
1	耕作放棄地解消面積(累計)	ha	1.5 (R2)	18	↗
2	新規就農者数(雇用就農含む)(累計)	人	19 (R2)	75	↗
3	農業産出額	千万円	1,271 (R1)	1,473	↗
4	担い手への農地集積率	%	45.4 (R2)	51.4	↗



現状と課題

- 本市では、恵まれた生産環境と地理的優位性を活かし、「市の果実」のいちご、「市の花」のさつき、伝統作物の麻、鹿沼そば、かめま和牛など、多彩な農畜産物が生産されており、市場から高く評価されています。
- 一方で、農業従事者の減少と高齢化が一層進み、農村地域の活力低下や耕作放棄地の増加などの問題が顕在化しており、地域農業の継続が課題となっています。
- また、食の安全や環境への配慮に対する消費者ニーズが高まっており、安全安心で高品質な農畜産物の安定供給や環境負荷の低減に取り組むことが求められています。
- そのため、経営規模の拡大や新技術の導入等による省力化・効率化・低コスト化などの生産性向上と、高収益作物の導入等による収益性向上に取り組むとともに、持続可能な地域農業の環境づくりを進める必要があります。



関連する個別計画

No.	計画名	計画期間
1	農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想	2021(令和3)年～
2	農業振興地域整備計画	2017(平成29)年～
3	農地等の利用の最適化の推進に関する指針	2020(令和2)年～2023(令和5)年
4	実質化された人・農地プラン	2021(令和3)年～
5	農村環境計画	2000(平成12)年～
6	地産地消で食育計画「かめま元気もりもりプラン partⅣ」	2022(令和4)年～2026(令和8)年



取組方針(公助)

① 農畜産物の生産振興を推進します。

- 水稲をはじめ、野菜・果樹・花き・緑化木・畜産など、多種多様な農畜産物の生産振興を図ります。
- 農業機械導入、農業施設・設備整備等に対する支援を行います。
- 高収益作物導入及び農畜産物のブランド化に向けた支援を行います。
- 中山間地域に適した作物の導入支援を行います。
- 農業生産工程管理(GAP)の認証促進を支援します。
- 地産地消の推進を図ります。
- 農産物の出荷制限管理の徹底を図ります。

② 継続的な地域農業の基盤づくりに取り組みます。

- 農地集積による経営の大規模化に加え、スマート農業の推進による省力化・低コスト化に取り組みます。
- 人・農地プランに基づき、地域の話し合いを推進し、地域農業の継続・継承に取り組みます。
- 集落営農組織や農業生産法人等の各主体が連携を図ることのできる環境づくりを推進します。
- 優良農地の確保に努めるとともに、耕作放棄地や遊休農地の発生防止・解消を図ります。

③ 農業・農村の魅力向上とPRを図ります。

- 農村への移住・就農の促進のため、農業・農村の魅力の情報を発信します。
- 新規就農者の募集・相談に取り組むとともに、定住・就農に関する各種支援を実施します。
- 田園の豊かな自然を活かし、都市間交流や農泊などを通じた交流人口・関係人口の拡大を図ります。

④ 環境に配慮した農業を推進します。

- 肥化センターを着実に運営し、家畜排せつ物の適正処理及び良質堆肥の製造に取り組みます。
- 有機農業や化学肥料・化学合成農薬を低減する取組を支援します。
- 農業用廃プラスチック等の適正処理に対する支援を行います。

市民がみんなで協力してできること(自助・共助)

自分自身や家族と協力してできること(自助)

- 地産地消を実践します。
- 農業体験に参加し、農業に対する理解を深めます。

近所の方々、自治会、企業、民間の団体などと協力してできること(共助)

- 農産物直売所や農村レストランを運営します。
- 都市住民が参加できるイベント等の地域活動を充実させます。
- 地域の農地利用の在り方等を地域で話し合います。
- 各種団体等と連携した農畜産物の生産振興に取り組みます。
- 営農組織同士で将来的な在り方の検討のための話し合いを行います。
- 土地改良区や水利組合等による農地や水路の保全を行います。



施策の将来像

生産基盤の整備や担い手の確保により経営の安定化が図られ、活力あふれる林業が将来にわたり継続できるまちになっています。



目標指標

No.	指標名	単位	直近の実績値	計画最終年度の目標値	目指す方向性
1	森林管理意向調査実施面積	ha	620 (R2)	4,220	↗
2	木材受託生産量	m ³	51,292 (R2)	76,000	↗
3	林業事業体の当期純利益	千円	28,620 (R2)	35,700	↗
4	林業事業体の職員数	人	85 (R2)	91	↗
5	野生鳥獣による農業被害額	千円	10,495 (R2)	7,750	↘



現状と課題

- 気候変動への対応や激甚化する豪雨災害による被害を軽減するため、森林の持つ二酸化炭素吸収、土砂災害防止、水源涵養などの公益的機能が発揮されることが期待されています。
- 本市は、市域の約7割が森林で占められており、豊富な森林資源を活用した林業・木工業が発展してきました。
- 平成28年には官民連携で森林認証を取得し、鹿沼産の木材は、新国立競技場や有明アリーナ等の東京オリンピック・パラリンピック関連施設にも使用されるなど、高い品質が評価されています。
- 一方で、素材価格の低迷により生業としての森林経営が困難となったことで、所有する森林への関心が薄れ、所有者不明森林や隣地との境界があいまいな森林が増加しており、森林の荒廃が進んでいます。
- また、野生鳥獣や森林病虫害による被害が深刻化しており、被害防止の取組が急務となっています。
- 健全な森林を維持するためには、生産性の向上と木材需要の喚起、販路拡大が必要です。
- 喫緊の課題である森林整備等に対応するための財源として、森林環境譲与税が配分されています。



関連する個別計画

No.	計画名	計画期間
1	森林整備計画	2017(平成29)年～2026(令和8)年
2	森林・木材活用プラン	2018(平成30)年～2022(令和4)年
3	鳥獣被害防止計画	2021(令和3)年～2023(令和5)年



取組方針(公助)

① 森林の持つ公益的機能を発揮できるよう、健全な森づくりを進めます。

- 経営計画の策定されていない森林について、森林経営管理制度に基づき、調査、整備を進めます。
- 市民団体などが行う身近な里山林の整備・管理を引き続き支援します。
- 健全な森づくりが将来にわたって引き継がれるよう、人材育成及び生産性と安全性の向上を支援します。
- 子どもたちが森や木に親しむ機会を創出し、将来の森づくりの担い手を育成します。
- 林道を整備・管理し、長寿命化を進めます。

② 木材の需要創出と利用促進に取り組みます。

- 需要拡大が見込まれる首都圏等における鹿沼産木材の認知度向上と販路拡大に取り組みます。
- 鹿沼産木材の利活用を推奨し、公共施設での積極的な利用を図ります。
- 環境に配慮した森林認証材を推奨し、持続可能な森林経営を支援します。

③ 野生鳥獣や森林病害虫による被害防止に取り組みます。

- 刈り払いや木の伐採等、人家周辺に野生動物が生息しにくい環境整備を啓発します。
- 人家や農地への侵入を防止するため、ワイヤーメッシュ柵や電気柵の設置を支援します。
- 野生鳥獣の捕獲に対する報奨金を支給し、被害の防止と軽減を図ります。

市民がみんなで協力してできること(自助・共助)

自分自身や家族と協力してできること(自助)

- 森林浴やハイキングに行き、山に親しむ機会を作ります。
- 家を建てるときは地元の木材を使用します。
- 地球環境に配慮した商品を購入します。
- 野生動物の餌となる食べ残しや野菜くずは、放置せず、自分で処分します。
- 所有森林の適切な管理に努めます。
- 有害鳥獣の捕獲に必要な狩猟免許を取得し、捕獲許可を取得します。

近所の方々、自治会、企業、民間の団体などと協力してできること(共助)

- 家族や地域と誘い合い、森林浴やハイキングに行き、山に親しむ機会を作ります。
- 野生動物が里に近づきにくくするため、藪の刈り払いを行います。
- 森づくりの活動を企画・実施します。
- 野生鳥獣による被害について一緒に学ぶ機会を設けます。
- 広域的な野生鳥獣の侵入防護柵を設置します。
- 企業による植林・下草刈りなどのCSRの取組に協力します。